

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 1 部門第 2 区分

【発行日】平成28年6月16日(2016.6.16)

【公開番号】特開2015-204968(P2015-204968A)

【公開日】平成27年11月19日(2015.11.19)

【年通号数】公開・登録公報2015-072

【出願番号】特願2014-86503(P2014-86503)

【国際特許分類】

A 6 3 F 7/02 (2006.01)

【F I】

A 6 3 F 7/02 3 2 6 Z

【手続補正書】

【提出日】平成28年4月26日(2016.4.26)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

第 1 面側に装着され且つ底面に複数の端子が配列された底面端子型電子部品と、
第 2 面側に装着される複数の個別電子部品と、
を有する電子回路基板を備え、
前記電子回路基板上に前記個別電子部品の情報を示す識別情報が表記された遊技機にお
いて、
前記個別電子部品は、
前記底面端子型電子部品の裏面側の位置以外に装着された第 1 電子部品と、
前記底面端子型電子部品の裏面側の位置に装着された複数の第 2 電子部品と、に構成さ
れ、
前記識別情報は、
前記第 1 電子部品から第 1 距離を介して該第 1 電子部品の近傍に表記された該第 1 電子
部品の情報を示す第 1 識別情報と、
前記複数の第 2 電子部品からなる第 2 電子部品群から前記第 1 距離より長い第 2 距離を
介して、前記底面端子型電子部品の裏面側の位置以外に表記された複数の第 2 識別情報か
らなる第 2 識別情報群と、を有し、
前記第 2 識別情報群は、前記第 2 電子部品群の装着範囲に比べて表記範囲が大となるよ
うに表記されている
ことを特徴とする遊技機。

【請求項 2】

前記第 2 電子部品群の周囲に、部品囲い線が表記され、
前記第 2 識別情報群の周囲に、識別情報囲い線が表記され、
前記装着範囲は前記部品囲い線により形成され、前記表記範囲は前記識別情報囲い線に
より形成されている
ことを特徴とする請求項 1 に記載の遊技機。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0005

【補正方法】変更

【補正の内容】

【 0 0 0 5 】

本発明に係る遊技機は、第 1 面側に装着され且つ底面に複数の端子が配列された底面端子型電子部品と、第 2 面側に装着される複数の個別電子部品と、を有する電子回路基板を備え、前記電子回路基板上に前記個別電子部品の情報を示す識別情報が表記された遊技機である。前記個別電子部品は、前記底面端子型電子部品の裏面側の位置以外に装着された第 1 電子部品と、前記底面端子型電子部品の裏面側の位置に装着された複数の第 2 電子部品と、に構成され、前記識別情報は、前記第 1 電子部品から第 1 距離を介して該第 1 電子部品の近傍に表記された該第 1 電子部品の情報を示す第 1 識別情報と、前記複数の第 2 電子部品からなる第 2 電子部品群から前記第 1 距離より長い第 2 距離を介して、前記底面端子型電子部品の裏面側の位置以外に表記された複数の第 2 識別情報からなる第 2 識別情報群と、を有し、前記第 2 識別情報群は、前記第 2 電子部品群の装着範囲に比べて表記範囲が大となるように表記されている。

また遊技機は、前記第 2 電子部品群の周囲に、部品囲い線が表記され、前記第 2 識別情報群の周囲に、識別情報囲い線が表記され、前記装着範囲は前記部品囲い線により形成され、前記表記範囲は前記識別情報囲い線により形成されている。

また遊技機は、電子回路基板が取り付けられている遊技機であって、前記電子回路基板は平面形状が略方形とされ、前記電子回路基板上に、平面形状が略方形であって、略方形の各辺が前記電子回路基板の各端辺に対して非平行となる斜め状態で装着されている電子部品を有するようにしてもよい。

斜め状態で装着されている電子部品を設けることにより、電子回路基板上の各電子部品間の配線パターンの引き回しを容易化する。また斜め状態の部品を含むことで、基板上の各部品の視認上の区別が容易となる。

【手続補正 3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 0 6

【補正方法】変更

【補正の内容】

【 0 0 0 6 】

本発明に係る遊技機は、平面形状が略方形であって、略方形の各辺が前記電子回路基板の各端辺に対して平行となる状態で装着されている他の電子部品を、さらに有することが望ましい。

電子回路基板の各端辺に平行な他の電子部品の側からみると、斜め状態の電子部品の 2 つの辺が見えやすい方向関係となる。これによりこれらの電子部品間の配線パターンの引き回しが容易化される。

また遊技機は、前記電子回路基板上には、装着されている個別の電子部品の情報を示すための識別情報が視認可能に表記されるとともに、識別情報を形成する文字列の方向は、対応する電子部品の長辺と平行となる方向とされていることが望ましい。

これにより斜め状態で装着されている電子部品については識別情報の文字列も斜めになり、基板各端辺に平行状態で装着されている電子部品については識別情報の文字列も並行となるため、識別情報と部品の対応関係がわかりやすくなる。

また遊技機は、前記電子回路基板は、識別情報を形成する文字の上下方向が、遊技機本体の上下方向とは逆方向とならない状態で、遊技機に取り付けられていることが望ましい。これにより遊技機に装着された状態での識別情報の視認性を高める。

【手続補正 4】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 1 0 2

【補正方法】変更

【補正の内容】

【 0 1 0 2 】

また特に図 18 A のように囲い線 32 で囲われた識別情報群 27 における複数の識別情報 25 について第 3 距離 K3 をもって表記することで、識別情報群 27 の範囲を囲い線 32 により一層明確化したうえで、各識別情報 25 を見やすくでき、かつ電子部品 21 との対応の認識性を良好とできる。

なお、以上において第 3 距離 K3 とは、特定の値の距離を指すものではない。第 3 距離 K3 は、隣接する識別情報 25 の間の表記間隔である。本実施の形態では、この第 3 距離 K3 が第 2 距離 K2' (又は K2 でもよいが) との比較として短いと認識される距離となっているものである。

また必ずしも基板 10 上の全ての識別情報群 27 において、識別情報 25 の間が第 3 距離とされていなくてもよい。例えばそれぞれが識別情報 25 とされた複数の文字列が、縦方向にのみ並べられている場合、第 3 距離 K3 を考えなくても良い。

【手続補正 5】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0119

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0119】

図 20 A, 図 20 B で説明する。図 20 B は例えば基板 10 の第一主面 10x、図 20 A は第二主面 10y を示している。ここでは「C101」等の識別情報 25 を例示したが、いずれの識別情報 25 も、端辺 12 を基準としたものか、端辺 13 を基準としたもののいずれかである。

即ち長辺が端辺 12 に平行な電子部品 21 に対応する識別情報 25 は、文字列方向が端辺 12 と平行とされ、端辺 12 が下側 (矢印 DR1 で示す方向が上方) となる。

長辺が端辺 13 に平行な電子部品 21 に対応する識別情報 25 は、文字列方向が端辺 13 と平行とされ、端辺 13 が下側 (矢印 DR2 で示す方向が上方) となる。

個々の電子部品 21 に対する識別情報 25 のそれぞれが、第 1 端辺基準と第 2 端辺基準のいずれかになるということは、全ての識別情報 25 の表記は、2 つの辺 (端辺 12 と端辺 13) 側から見て読み易い状態となっていることになる。

また文字列方向が電子部品 21 の長辺と平行になるため、電子部品 21 と識別情報 25 の対応関係も把握しやすい。

これにより識別情報 25 の対応関係を明確にし、かつ識別情報 25 が読み取りやすいようになる。

【手続補正 6】

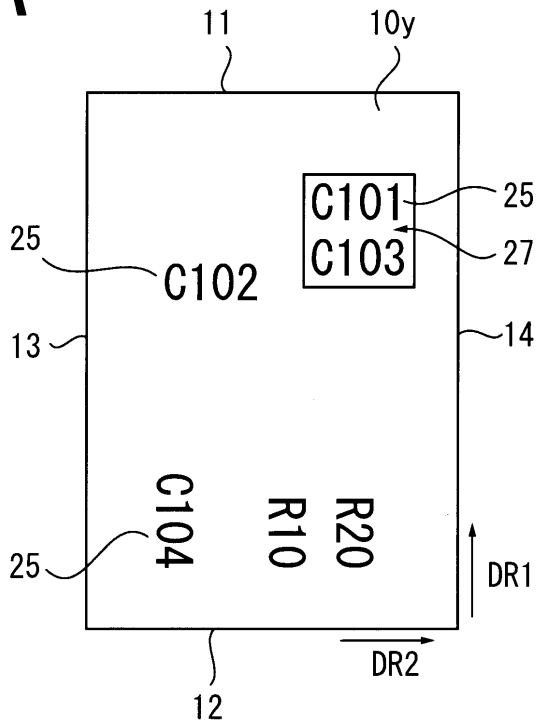
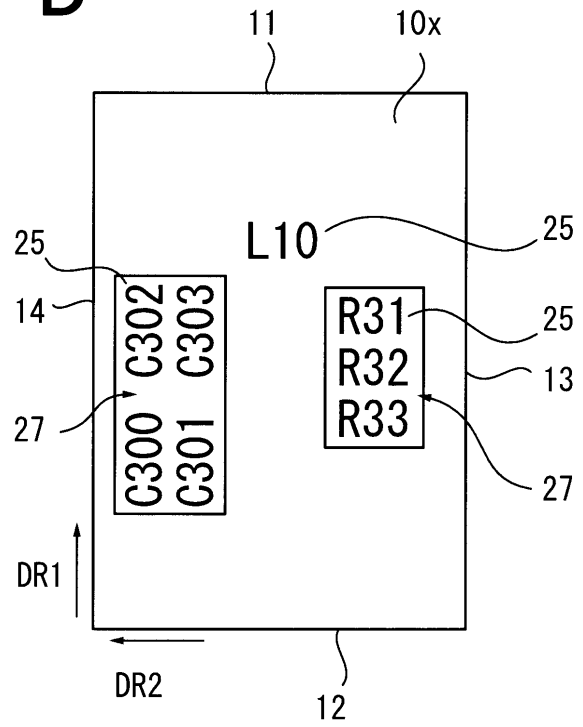
【補正対象書類名】図面

【補正対象項目名】図 20

【補正方法】変更

【補正の内容】

【図20】

A**B****C**